

2018年6月18日大阪府北部の地震（M6.1）にともなう宝塚観測点の地下水位・歪データの変化

Changes in groundwater level and borehole strain data associated with the 2018 Osaka Hokubu earthquake (M6.1) at the Takarazuka observatory

*松本 則夫¹、木口 努¹

*Norio Matsumoto¹, Tsutomu Kiguchi¹

1. 産業技術総合研究所地質調査総合センター

1. Geological Survey of Japan, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST)

産総研では1996年に宝塚観測点において、水位計と坂田式孔井内三成分歪（ひずみ）計を設置した。この観測点は2018年6月18日の大阪府北部の地震（M6.1）の震源から約26kmに位置しており、同地震後の地下水位及び歪データの変化を観測した。観測した地下水位は地震時に約14cm低下し、その後急激な上昇傾向となった。1時間で約25cm上昇し、2日後まで約1m/日で上昇し、8日後に約4.2m上昇した。地下水位の変化は地震にともなう歪ステップやその後の歪データの変化では説明できない。過去20年余で観測した宝塚観測点における地震による地下水位や歪データの変化と大阪府北部の地震による変化を比較する。

キーワード：地下水位、歪、大阪府北部の地震

Keywords: groundwater level, strain, Osaka Hokubu earthquake